

幼兒の教育機關に就て

前文部次官 寺田勇吉

諸君教育と云ふものは明け暮れ人に付き添て居るもので人が生れて此世へ出るや否や直に教育の必要が始まつて死んで棺の蓋をされてから始めて止むものである若し獨嚴密に論ずるならば胎内の教育もあり死んでから後の教育もあるかも知れない然し先づ現世に居て吾々が受けねばならぬ教育に就て論ずれば其階段が凡そ三段ある先づ第一は家庭教育で其次は學校教育其次は社會教育である此三段の教育が偏頗なく行はれてそこで始めて教育の目的を達することが出来る若し此三段の教育がなる成功を観ることが出来る若し此三段の教育が一方に偏するとか又は互に衝突する様なことがあつては到底完全なる教育の効果を收むることは出来ない例之學校に於て「ベスト」病は實に恐る可き傳染病である之を豫防するには斯くくせねばならぬ住家の近傍を清潔にし塵埃捨場などは取り

分け能く掃除せねばならぬと云ふことを兒童に教へた所が其兩親が此等の心得がなく、何、塵埃捨場の汚穢ないのは當然だ別に掃除の仕様があるものかなどと家庭教育で學校教育を打ち消す様なところがあつては教育の効能の見える筈は無い只「ベスト」が彼地にも此地にも蔓延して教育家にも衛生家にも醫者にも警察官にも防衛の手段が盡きて仕舞ふ、是れは家庭教育と學校教育と衝突するからである、貧民の子弟が肝要の修業年齢に終日子守を爲すとか家業の手傳をなすとかで學校へ就學することも出来ず親に付いて工場に出掛け親と共に工業に従事するとか云ふ様な類は家庭教育ばかりに偏すると云ふてよいこんな類は或は教育などと云ふ名を下すことは出来ないかも知れぬ斯様な譯では到底完全なる教育の効果を收むることの出来ぬは吾輩が喋々説明するまでもない、然るに我邦の現在の有様を見れば學校教育には世間の人も漸々盡力するやうになつて益々盛になつて來たが、家庭教育は未だ至つて振はない貴族と呼ばれ紳士と自稱する連中すら、家庭教育のことは餘り

注意するものがない、公人としては随分人よりも尊敬せられ國家よりも優待せらるゝと云ふ様な人々でも、一寸其家庭の内幕を窺つて見ると實に御話にもならぬと云ふ様な事がある、然らば社會教育は如何と云ふに是れ亦甚だ衰へて居る我國でも維新以前は社會教育は随分行き渡つて居つた様に見える其の金銭の貸借證文などを見ると若し私が見えりた金を約束通りに返さなかつた時には人中で御笑ひ下さつても少しも苦しくないといふ様なことが書いてある之を讀むと此時代の社會は痛く違約を責めて若し違約者あれば之を擯斥して、仲間入をさせぬと云ふ社會の制裁が明かに見える即ち社會教育の効能である然るに今日は如何であるか五圓十圓の貸借にも證文が要る抵當が要る證人が要るそれでまだ満足が出来ぬと云ふて政府を第二の證人に立て収入印紙を貼付して政府に保證して貰ふやうな次第である斯程嚴重にした以上は貸借上の間違は無いかと云ふに裁判沙汰になるものが案外に多い、若し昔の様に笑はれた位で借金を返さずに済むならば吾もくと借金する人

ばかり殖えて仕方がないかも知れぬ畢竟信用に關する社會の教育が行はれないからである、我邦今日の家庭教育と社會教育とは先づ斯様な有様であるから吾々は今後大に家庭教育を社會教育の方面に向つて盡力せねばならぬ、夫故、諸君も吾輩と共に幼稚園の事業に盡力せらるゝは余輩の深く同情を表する所である。

借て諸君の盡力せらるゝ幼稚園の事業は家庭教育に屬するか又は學校教育に屬するかと云ふに、吾輩は家庭教育に屬するものと思ふ、何となれば幼稚園と云ふものは家庭教育の及ばざる所を補ふものである決して之を學校教育と同一に視るべきものでない、若し學校教育に屬するものと云ふ様な考を持つならば、夫は大間違である、家庭教育を補助する機關に種々の種類がある其第一は乳兒預所である出生後二週間より満三才迄の兒童を預る所である一寸其起源を述べれば千八百四十年佛國巴里に於て始めて設立せられたるもので巴里の醫師「フイルマン、マルポー」と云ふ人の考案から成立つたものである此「マルポー」と云ふ醫師が巴

里の貧民の子供が折角此世に生れて來た甲斐もなく狭い腹の中から廣い世界に出るや否や、貧乏の爲めに苦められて或は病氣にかゝり或は死んだりして満足に生長することの出來ないのを憐んで何卒不幸の子供を救済したいと云ふ慈悲心から考へ出したものである「マルポー」の言つた辭に母親の仕事する間児童を看護し母親の不在の間児童を世話し児童の教育の手傳をなすは最も仁愛ある最も智慮ある最も有望なる事業であると言つた「マルポー」は此趣意で乳兒預所を設立して母親が工場等へ出て仕事をす間乳兒を預り乳も飲ませる入浴もさせる大小便の世話もする衣服の洗濯もしてやる、眠むたがる者は寝かし起きて遊ぶ者には玩具を與へて遊ばせると云ふ様に丸で家庭で慈愛厚き母親の膝下で養育せらるゝと少しも違ひないと云ふ取扱をなすのである、此乳兒預所の恩澤で貧乏人の小兒も満足に生長することが出來其両親も安心して精一杯仕事に従事することが出来る「マルポー」の考は至極よいと云ふので漸々發達して歐洲の文明諸國に行はれ今日は佛蘭西一國でも

乳兒預所が數百ヶ所もある程である。家庭教育を補助する第二の幼兒教育の機關は托兒場である。是は満三才から満六才迄の兒童の世話をなし身體上の危険なき様に保護し又食事の時間が來れば食物を與ふるのである。兩親が毎朝仕事場へ出るとき其小兒を連れて托兒場へ連れ込んで保護を頼み置き日暮方仕事場を終て家に歸る時又托兒場まで立寄つて小供を連れて歸ると云ふ仕組である。貧民子弟の家庭教育を補助するに欠くべからざるものである、第三は即ち私の設立せる精華學校の幼稚園と同種のものである。此種の幼稚園は幸に吾國にても追々發達して來た。次は兒童救護所である、人殺をしたとか窃盜をしたとか或は火付けをしたとか其他種々の罪惡を犯し裁判宣告に依て處刑せられて自分の兒童を自分で教育することの出來ない親達の子供又は兩親に死別れた小供、又は小供を置き去りにして思ふ人と手を携へて逃亡し行衛不明と云ふ様な人の子供、此等の不幸の小供で親類の引受手もない朋友の世話のしてもないと云ふ様なものを引き取つて教育する所である。尙ほ此外にも兒

童教育の爲めに設置せられ兒童教育の機關たるのは種々あるけれども先づ大要只今御話した通り者ものである是等は何れも家庭教育の及ばざる所を助けて家庭教育の完全を圖るを目的とするのである即ち下等社會の人々が或は自分の稼業に忙はしくして小供の教育をすることの出来ない、小供の世話をして居ては其日の生活に差支へると云ふ家庭の爲めに必要なものである、我邦に於ても何卒此等の各種の設置が各地に行はれて大に家庭教育の完備を圖る様に致したい殊に東京京都大阪及神戸地方の如き工業に従事するもの、多き地方に於ては前申した乳兒預所とか托兒場とか云ふ様なものを澤山設置するは顯る必要なくと思ふ、吾輩は今後世人が此點に向つて少しく考慮を費されんことを望む。

倍て幼稚園に就ては諸君は既に十分の智識と經驗とを有せらるゝことを信するを以て吾輩は別に喋々せず只一二の希望を述べて諸君の注意を煩はしむたいと考へる、吾輩が幼稚園に就て諸君の注意を煩はしたいと思ふ第一の希望は幼稚園を以て學校

教育と同様に見て貰つては困ると云ふことである之は吾輩が事新らしく申し述べるまでもなく分りきつたことである併し今日の各地の幼稚園の實況を視るに此點に關する注意が至つて乏しい様に思はれる元來幼稚園は諸君も御承知の通り就學年齢前即ち三才乃至六才までの幼兒の家庭教育の及ばざる所を補助して幼兒の身體及精神上の發育の完全を圖る所である故に其教育方法は云ふまでもなく「フレイベル」の主義に従はねばならぬ「フレイベル」の教育主義とは幼兒の心の中に將に發生せんとする理性の萌芽を天然の法則に従つて發育する様に教導をせねばならぬと云ふことである「ハールマン」と云ふ人の言つたことに幼稚園は美麗なる庭園である保姆は丁度庭作りの様なものである此庭作りは其庭園の草木の性質に従つて嫩葉伏芽の發生を保育せねばならぬ土地の乾濕氣候の寒暖周圍の狀況に應じて相當の手當を施さねばならぬ未來の生長を害ふべき雜草を蒞除せねばならぬと言つたが幼稚園の教授法を譬喩的に説明した面白い説である斯様な譯であるから幼稚園にて

は學校風の教育は之を嚴禁せねばならぬ、然るに現今我國の多くの幼稚園中には學校風の教育を施し、幼稚園に於て文字の読み書きも教へる算術も教へる習字も教へると云ふ所があつて殆ど學校と異ならない幼稚園があると聞く現に先年東京の或る幼稚園等は其幼稚園の保育を終つた者には小學校の第二級へ入學を許可して貰ひたいと云ふて其筋の人に内願したことがある是は勿論世間の幼稚園主の多數と云ふことは出來ぬが幾部分の意思は代表したものと謂つて差支なはと思ふ、斯様な間違つた思想が幼稚園設立者の間に行はれるのは畢竟幼稚園の研究が足りないから起る弊である然し是も幼稚園主ばかり咎める譯には行かぬ幼児の両親たるものも共に其罪を分けねばならぬ、幼稚園へ幼児を入れる親達も幼稚園を以て小學校の初歩を授ける所と考へる者がある四才や五才の幼児が幼稚園で不法の教育を受けて一二三の數字でも書ける様になつたり、いろはでも讀める様になる

と其親達は鬼の首でも取つた様に大喜びで近隣の人に誇る朋友にも話す親類の人でも來ると「坊や

いろはを御讀み」としていろはを讀ませる親類の人は非常に御進歩ですと褒めると云ふ様な風である幼稚園で斯る不法の教育を受けるのは本來悲むべきである「フレール」は幼稚園は小學校ではない、兒童の樂園であると云つたが右の様な譯では樂園どころではない兒童の爲めには一の苦役場となるのである然るに其悲むべきを知らずして却て之を喜ぶと云ふ親達の心が幼稚園の教育をして學校風に趣かしむる一の原因をなすのである、吾輩は諸君の盡力に由て世間の親達も、速かに斯る考を改める様にしたい又幼稚園の事業に従事するものも能く幼稚園の趣意を辨へて幼稚園は身体の健全を計り良習慣を養成するを目的とし幼稚園を以て小學校の第一學年を教ふる場所と思ふ様な大間違をなさぬ様に注意して貰はんければならぬ第二の希望は現今我國に設立せる幼稚園の外に下等社會の家庭教育を補助する幼稚園を多く設けたいのである我邦現今の幼稚園の有様では下等社會の爲めには何等の恩恵をも與ふることが出來ぬ、獨逸は幼稚園の祖國であるから定めて各種の幼稚園も

澤山あるだらふと思ふ人もあるが實際彼の國へ行つて見ると中等以上の家庭に於る兒童を收容する幼稚園が案外に少なく多くは下等社會の爲めに設立せられたものである、下等社會の家庭の母親は工場へ行くとか郵便局に出るとか夫々稼業に忙しくして可愛い小供の世話さへして居ることが出来ぬ又斯様の家庭の母親は縱令多少の餘暇があるとしたりとろが充分に其小供を保育する程の智識を有つて居ない是は下等社會の婦人の悲しさに、相當の教育を受けて居らぬから小供を造ることは知つて居ても小供を教育することは知らぬ、そこで托兒場に托して小供の世話をして貰ふと云ふ譯で獨逸の托兒場は下等社會の家庭教育を補助するに缺く可からざる機關となつて居る我輩は諸君の盡力に依つて我邦に於ても獨逸の如く下等社會の用をなす托兒場の漸次設立せられんことを希望するのである。

諸君、我輩は幼兒の教育を論ずる毎に必ず思ひ出す一問題がある其は女子教育の問題である何故幼兒の教育と同時に女子教育の問題が出るかと云

ふに、幼兒の教育の善くなるも悪くなるも其運命は一に女子教育の如何に依つて決せらるゝからである即ち幼兒の母親の教育如何に依つて決せらるゝからである、吾輩は過日一教育の効果を收めんと欲せば先づ賢母を養成せざる可からず」と題して女子教育に就て卑見を述べたが、其筆記は諸教育雜誌などに載せてあるから今日は詳細のことは略しましが、母親は幼兒の教育に就ては全權を握つて居る一家の戸主と云へば男子即ち幼兒の父親である然るに其家庭の教育の主人公は母親である、母親は實に家庭教育の大先生である先づ胎内教育を初とし生れ出ても専ら母親の教育を受けて生長するものである、人は生れるから死ぬまで絶えず教育を受けねばならぬ吾輩は此長い間の人間一代の教育の半分は既に幼兒が母親の懷に抱かれて乳を飲ませて貰ふ間に卒業するものと思ふ、即ち二三才までの間に人生教育の半分は卒業するもので其残り半分を其後の家庭教育學校教育社會教育等に依つて補充するものであると思ふ母親の教育の必要なることは古來より言ひ來つたもので今更耳

新らしく言ふまでもないが「スマイルス」は母親の教育の勢力の強いことを説明して母親は家庭の「マグネット」である丁度鐵片が「マグネット」に吸集せらるゝ様に其家庭に居るものは誰一人として母親に感化せられないものはないと云つた、簡單にして味のある言葉である幼児教育と女子教育とは斯様に密接の關係を有するから、吾輩は幼児教育の問題は即ち女子教育の問題であると思ふ女子教育の問題と云へば其研究すべき事は澤山あるが結構我邦の女子教育を盛にして將來人の母たり妻たるものに相當の教育を興ふる様にせんければならぬと云ふことである、我邦の女子教育は近來大に進歩したが其實質に就て見れば未だ完全とは申されないことが澤山ある、北米合衆國は諸君も御承知の通り女子教育の非常に隆盛な國である併し今日の隆盛を來した歴史を尋ねれば、世人が女子教育問題に注意せしは亞米利加の獨立戰爭以來のことである、しかも最初は種々の反對説があつて容易なことで發達したものでない英國なども同様で以前はあまり女子教育を重んじなかつた

「リチャード、マルカスター」などは女子教育の必要を認めながら猶女子教育を以て男子教育に隨伴する一の附屬物たるに過ぎないと言つて甚く女子を輕蔑し男子は天然に女子より貴重である殊に政治上に於ては猶更女子よりも大切である故に教育は全く男子の爲めに設けられたもので本來男子の所屬に歸すべきものだなどと説いたことがある英國や米國すら、以前は教育家の間にさへ斯様な議論があつて女子教育に熱心の人々の盡力に依て搖籃の小兒は未來の大人は第二位に置かれたものであつた然るに其後段々女子教育である未來の大人を教育するは母親である故に母親を教育するは最も必要であると云ふことで段々母親の教育の大切なることが世間の人に認められ終に今日の隆盛を來したのである即ち女子教育家の盡力の結果である「フレイベル」の如きも幼稚園創立までには中々苦心したもので二十二年の時に教員の職に従事し夫から瑞西へ行つて、「ベスタロッチー」の處で修業して段々研究の功を積んで漸く五十五才の時に至つて幼稚園の考案が定つたので兒童の保育

機關を「ブランケンブルグ」に設立して「キンデ
ンガルデン」と名けたのが千八百三十七年である
即ち二十年以上も苦心盡力して始めて成功したの
である、故に吾々も「フレ！ベル」の心を以て倦
まず怠らず今後益々幼児教育の事に盡力し今後數
年の後には幼児保育事業の完全にならん事を希望
するのである。

童話に就いて

高島平三郎

童話と云ふものは幼稚園に關係ある讀者諸君には
頗る深い關係を以て居るものである、元來此幼稚
園の仕事と云ふものは幼児の自發想像が基になつ
て居る、即ち幼児の此時代と云ふものは想像の最
も盛なる時代なるが故に之に童話を聞かしむるこ
とは最も適切なることである、そして童話は想像を
基とせるものであるから自然童話は幼稚園の中心
となつて居る、もつまりは此時代の幼児の遊び
は凡て想像を基として居るからである。

童話の起源と云ふ様なことに就ては夫れく専門
に調査可き價値がある、今現在存して居る所の童
話を調べて見ると其起源は何れも各國の神話と大
に關係のあることが知れる、而して此神話なるも
のの起源に關しては三つの理由がある、童話の起
源を考ふるには是非とも此神話の起源からして調
べて來なければならぬ、其神話の起源に關する三
つの理由と云ふのは

第一、自然の現象を見て人が之に勝手な解釋を附
けることである、例へば「雨が降る」、一水が流れ
る」等の自然現象に對して先づ何故に此の如く降
り又は流るゝかと云ふ疑問を發し、次に之を自己
の日常生活上の習慣的思想に因りて説明し始め
る、即ち「水は神様が流して來さるゝの様に日常
の見聞に對して比較想像し始める、是等は凡て小
兒に表はる心象である、第二は類化の誤りより生
ずることである、
凡て物は直観した許りでは満足することが出來な
い、直観した以上は夫れに就いて考へ夫れに就い
て意味を付ける、例へば二三才の子供が櫻の花の